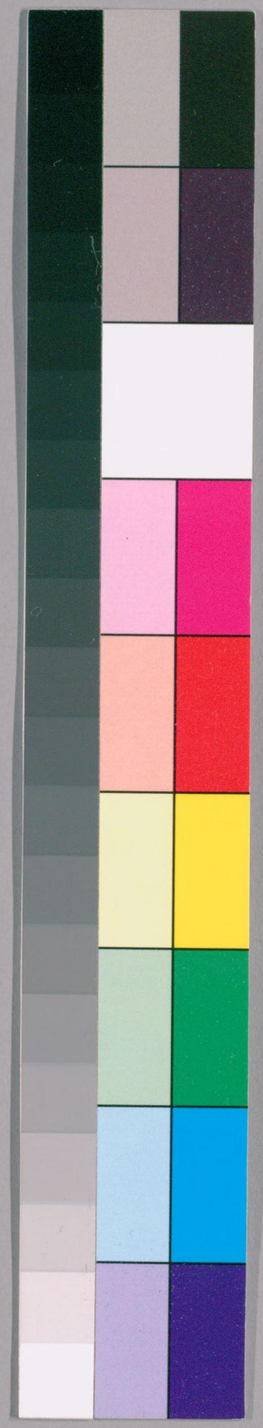
十輻

辰
30
44



国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

三十輻之解圖

44
1

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『三十輻』請求記号　辰-44

三十輻　巻之一

歌體約言

武家諸法度之奥書

田安黄門

國本論

右三品

久世侯

白川世子

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号　辰-44

ガラス使用

三十輻巻之二

梓巷談苑

名賀記載筆

右二品

或公梅園霞州
名氏

同

みそはぎ巻之三

以呂波物語

君臣歌

以呂波捜索秘

右二品

作者不詳

細井知慎

作者不詳

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

三十 幅巻之四

郁子譜
勢語七考
當道拾要錄

右三品

作者不詳
賀茂季淵
作者不詳

三十幅巻之五

ぬるでもみぢ集 三巻

右一品

多田義寛

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

三十輻巻之六

竈北瓊語 全八巻
自一至三

恩田仲任

三十幅巻之七

竈北瓊語 全八巻
自四至八

恩田仲任

みその八

雲湊浪語 上中下

備前國土肥経平著

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

三十輻巻之九
祭儀畧

三十幅巻之十
喪儀畧

大藏克紹
村士宗章

大藏克紹
村士宗章

みそのや巻之十一
國歌八論
をだまき
三議一統辨
右三品

荷田在滿
撿校保己一
伊勢貞丈

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44
ガラス使用

三十幅巻之十二

岩仙

閑室拾遺

北村季吟

釋雲洞

三十幅巻之十三

雜記

ろくろその考

老の幸

右三品

契仲法師

阿倍照任

坂昌周

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

三十輻巻之十四

古学先生和歌集

右一品

之巻乃至巻之十五

源氏外傳 上

伊藤維楨

熊澤伯継

之巻乃至巻之十六

源氏外傳 下

熊澤伯継

みたまのや巻之十七

周尺考 附三種尺

物茂卿

盡徹問答

作者未考

欽定古今圖書集成總目

譯司某

示木公達書目

物茂卿

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号　辰-44

ガラス使用

子姪ヶ禁誹諧文

右五品

通計十七卷三十品

鳴鳳卿

續三十輻卷ノ一

常盤日記

本朝刀劒略記

右二品

土師惣文

壺井義知

同三十輻卷之二

隣交始末物語

附錄朝鮮信使ヶ差延一件

兩森東

琉客談記

赤崎楨幹

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号 辰-44

ガラス使用

右二品

績みそのや巻之三
東鑑異本考 改正板本東鑑目錄附
宮城堂舍諸門柔上誌
閑窓一得
廢斗目考
假名暦註解

右五品

績三十輻巻之六
賓客禮俗式
問学禮俗式
正徳二年壬辰冬與白石諫書

右三品

績みそのや巻之七
新蘆面命 上下

績みそのや巻之八

柳原長俊
同人
作者不知 或云服部元喬
松岡辰方
山路主住

長崎譯文
同前
室直清
保井筭哲

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44
ガラス使用

廣細畧記
十品考
和藥出産
梅名并花形
上苑梅譜
附録
悟歌齋梅品中所載
吹上詩園九種和歌

右五品

續みつの巻之九

長崎譯司
小野蘭山
東柱武群

負徳翁終焉記
鎌倉閑居記
疏儀荘記
朝清水記
戸山清庭記

右五品

續みつの巻之十

雨夜燈

續三十幅巻之十一

負室
吉川惟之
北村季吟
英一蝶
久世舎善

湯浅元禎

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

廻文誹諧百韻
紫野大徳寺中客殿画之知恩院
琵琶撥附
季吟子和歌
荒陵懐旧詠
右五品

石田未得

権律師順宣輯

廣三十輻 三集巻之一目錄
對門 藤氏
昌平學校釋奠式并神祭供
附録 迎送神曲
鷲峯林学士所定釋菜式
明和三年釋菜書付
寛政庚申釋奠儀注
坊保町圖解
輿地谷國積解

大塚嘉樹
平野昌傳

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44
ガラス使用

右四種

廣三十輻卷之二目録

不問語　朝本

赤水雜錄　未成書

右二種

廣三十輻卷之三目録

山處語類抜書

右一種

平維章

長久保玄珠

廣三十輻三集卷之四

藥肆人參類集

物雖至微

右二種

廣三十輻卷之五

飛騨の山

放生會之觀一記

檜垣寺古瓦記

日本　田村元雄

清　潭元愷　尚

周　壬森　荅

物茂卿

太宰純

服部元喬

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

沖嶽てう

廣 三十幅 三集 巻之八目録

雨秋物語

一名藻屑物語 一名 右京記

一名 友信記

右一種

上田秋成

廣 三十輻 巻之七目録

玄圃追善集

誄名寄

民部卿法印道春

上田秋成

水雲記

右三種

上田秋成

廣 三十輻 巻之八

片玉集抄

員(ツフラ)心恭

廣みそのや 巻之九

東山花見記

續花見記

寛政三年営中沖会良夜詩歌

宇野雲由迪

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

用八集一橋侯鈔屏風画贊　羽倉氏女
京和訓　林春齋
文月の記
右二品

廣三十輻巻之十
朝鮮物語 付柳川始末
明和韓使来聘記閑
右二品

廣三十輻巻之十一
帝典考　柴邦彦
碑碣考　長崎譯司
唐山欵客式　中井積徳
華夷物語
右四品

廣三十輻巻之十二止
栗山堂書抄　柴邦彦

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

新三十輻巻之一四集

甲州略記

奉使小録

紫

寺川御談

右四品

新三十輻巻之二

高城下野家記

醫西仙

青木敦書

仝

寶永堂

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号　辰-44

ガラス使用

旃檀瑞像考　附旃檀像殘摹の經ども　屋代弘賢
畔柳助九郎武玄覚書
安寺持方記　羽州求澤三面記附　岡野従
右四品

新三十輻巻之三
寓意艸　上
寓意艸旧本一巻今分為上下二巻

新三十輻巻之四
寓意艸　下
寓意艸旧本巻今分為上下二巻　成島和鼎

新三十輻巻之五　跡部光海
発多心碑始末　藤井直設
新三十輻巻之六　太田
日本養子説　後藤秀
材木價書
歴代租法
和漢合鑑本草　残

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44
ガラス使用

右四品

新三十輻巻之七

花うつし考　名賀　伴蒿蹊
　　大久保　狛
花うつし考
うつし考　小野道風像冠服考　小野　六家
右四品　　倉賀野
　　藤塚知明
　　屋代弘賢
　　伊勢貞丈

新三十輻巻之八

糟粕手鏡　二巻　抄脣

新三十幅巻之九

右二種　　白拍子武

新三十輻巻之十

輞軒小錄　伊藤長胤
存心　奥田士儐
斯文源流　河口子泯
静斎詩稿附

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号　辰-44
ガラス使用

右三種

新三十輻巻ゝ十一

天寿随筆　平思明

うけむけ　屋代弘賢

擬集古録　巻二三四五六七　半本　十六八九十　並河永

梅柳逗策　林氏

家産俗談

右四品

新みそのゝ巻ゝ十二

査祇餘録

新三十輻巻ゝ十三

あゝものゝゝ

白川侯

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号　辰-44

ガラス使用

補三十輻之一　五集
夏山雜談　上
補三十輻卷之二
夏山雜談　下
補三十輻卷之三
駿岳隨筆
　心悵制度
　奉幣使之度解劔不解劔之評
　陸奥紙檀紙
　井露降車実

嘻樂磨
嘻樂磨
稲嘉樹

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号　辰-44
ガラス使用

藥玉考
菜蔓裏ノ考

補三十輻巻四

川口靜齋隨筆

近代和泉考

上近衛公書

碍碣考

一遍上人考

右五品

川口子深

榮邦彥

同前

大草良河

補三十幅巻之五

西藩偶記

遲遲國書翰并返翰

右二品

曽占春

補三十幅巻之六

石郎宗祇紀行

山岡明阿紀行

宮下紀 一名紀ノセキの誤

郡山城主柳澤吉里

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

詠涼氏我神卷之和歌
沸所品藪之
右五品

補三十輻卷之七
三曉菴雜志 卷下
平維章

補三十輻卷之八
三曉菴雜志
和學辨

補三十輻卷之九
三英隨筆
望月三英

補三十輻卷之十
蕃藷考
青木敦書

補三十輻卷之十一
蕃藷錄
松岡成章

補三十輻卷之十二
蕃藷考補
青木敦書

發蒙錄
森休卿

負丈翁考赫蹄
大塚喜樹

右二種

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44
ガラス使用

補三十輻巻ら十三
渡邊幸菴對話

補三十輻巻之十四
泰庵戲言

補三十輻巻之十五
笠翁別号

杉本義隣

交泰庵朝陽

鈴木文

補三十輻巻ら十七
文政五年四月十日
五十歳還至終獨吟

一位殿

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

百和香巻之一

桑家漢語抄

倭假名反切義解

右三品

楊梅亞槐

百和香巻之二

海人藻芥

花山耕雲

百和香巻之三

永仁御即位注進牀

恵命院

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

縣召除目次第
右二品
百和香卷之四
竹生島緣起
東大寺大佛殿緣起
齋藤亜相正義公来由
右三品
百和香卷之五
高島里石孫陀寺懷奘緣起
藤澤山宇賀神緣起
玉藻前
古緣起殘編
右四品
百和香卷之六
新建瑠璃殿記
中堂供養記
百和香卷之七

守玄堂藏板
東叡院家所藏寫本

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44
ガラス使用

但馬大田文
四方指之事
右二品
百和香巻之八
喫茶往来
酒茶論
右二品
百和香巻之九
朝倉敏景條々
弘安八年
文治三年
玄恵法印
沙門蘭叔

景勝家法
楠判官兵庫記
右三品
百和香巻之十
十牛図説
桂明抄
文禄二年禁中法帳番組
あるかこ
平五郎記
貞江兼績

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44
ガラス使用

天神山古墨写
詔詞縁起
右七品

百和香巻之十一
慕帰絵詞
百和香巻之十三
顕経家集
西行上人談抄
心敬紀行
右四品

従覚作

百和香巻之十五
細川殿陸之画賛
天正十年五月山城國妙宮山明智光秀
百韻
賦何山連歌 永政信
井尻又九郎若道薦免状
細川玄旨法帖古今若鳥序
誹諧之発句 紹巴
右六種

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44
ガラス使用

百和香　巻之十六
弘長記
澤巽乃往覚書

百和香　巻之十七
土氣古城再興佛来記
土氣東佛記

百和香　巻之十八
酒井常陸入道
榎田下総入道　古老人大永年旧記

百和香　巻之十九
宮明寺殿庭訓
右一種

百和香　巻之二十
日記歌
源平盛衰記人名
倭字解
右三種

後五位下秀範
作者不知

群書一覽卷之六

琉球國聘使記

附

奏樂琉歌儀注 寛政二年庚戌

曲詞樂器圖 附

信陽山人韓館倡和稿

凡二種

物茂卿

大宰純

群書一覽卷之七

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

群書一覽卷之八

高子觀游記
大追物記
尚書學
孝経識
孟子識

凡五種

源君美
林春齋
物茂卿
物茂卿
物茂卿

群書一覽卷之九

倭楷正記

太宰純

群書一覽卷之十

陽九述畧
靖臺實録
平臺鄙文
附録平定臺灣述畧 清遺雲菘

右三種

明朱之瑜
清黃耀烱
清大孝士公阿

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

群書一覽續編卷之一
經郛典例序
附方策合編序
亂婚傳
史記訂疑 止三種
續群書一覽卷之二
樵談
釋奠記
三儒往復

源君美

太宰純

思田仲任

藜園主人

祭酒林公衡

約山門人平錄

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

日東行程考　無名氏
那須國造碑考　藤原秉麿
奉呈勘解由新井公書　兩森東
續群書一轂卷之三　凡六種
梔中鏡　劉元簡
奇觀録　凡二種　龜井魯
同群書一轂卷之四　林道春
畜生家記　路陽子
草賊前記
草賊後記　路陽子
奴為故主　源君美
擊虎　一作草梁擊虎　滿山環
凡五種
同群書一轂卷之五　柴邦彥
賢聖障子考證　附榮学士贈藤画博詩一首
傲昊五十詩　凡二種　河世寧
同群書一轂卷之六　凡二種　龜田興
黍稷稻粱辨

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

金鍾兒譜　小林攸
称謂私言　尼藤考撃
燕澤玄又碍考　藤塚知明
授簡新篇　水藩
谷一齋詩文草稿
凡六種

同群書一轂卷之七　秘園元瑜
湘雲瓚語　二卷
附錄國字文

同群書一轂卷之八

心喪集語附錄　安東守約

同群書一轂卷之九　南郭服子
康熙帝遺記　尾張恩田仲倢
鈍史　袁中郎　渓浦源林卿
紫芝園漫筆抄　犬家遜
寐隠辭
蓬萊宮賦
淫声辭

同群書一轂卷之十　越人關弓録

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号　辰-44
ガラス使用

辰
44
1

同群書一覽卷之十一 天尾

芳洲口校

兩森東

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

三十輻之卷

辰
44
2

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『三十輻』　請求記号　辰-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

三十輻考之一

歌體約言　田安黄門

武家諸法度之奥書　久世侯

國本論　白川世子

右三品

南畝子輯

序

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

まあるみずたまそうに古の風そうするあるそう
けふおそう〳〵きそう給ふおそうそうあそうそう待りまし
やそう〳〵壮年ふそう〳〵古の風のまそう〳〵ふそう〳〵
の風を捨そう〳〵ふそうそう〳〵ふそう〳〵今ふそうふ
治乱を経いあるそう詳そう〳〵ます〳〵古の風を
たそう〳〵ふそう〳〵ふそうれそう〳〵世事ふそう〳〵
ふそうこれそうふるいまり〳〵あやすあす
経歴の風そう〳〵古をかそう〳〵ふそう〳〵人の事をあらふ
そうめて古そう〳〵世あや〳〵きそう〳〵ふそうのまそう

老のみ〳〵ふそうやそうれやそう〳〵ふそうそう
古の風そう〳〵ふそう〳〵迎享ひのそう〳〵ふそう
まそうす

参議従三位右衛門督源朝臣宗武

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号 辰-44

ガラス使用

武家諸法度ノ奥書

右歌體約言一巻村田春海所藏也今
得蛾術齋所写而書之
寛政四年壬子八月十八日藤原尊謹写

加茂真渕謹言

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44
ガラス使用

法度之奥書

家法之隆替、要可尋之、
公義沈淪之趣、不可弁之、
和漢を一、古今之通鑑、
風俗を考、教訓之基本、
修齊治平之言、博而且約、
大旨四海之為、文才智之
文字之ともいふべからず、
八洲民安全之謂歟、

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44
ガラス使用

聖代の治代であるから、治安利欲の習を深く、
利益であるとして、実を尚び虚を
ものであるから、古の事を去せるまでもないが、
実のあり、陰のあるの上手や、
陰のみを求めるまでもあるまいが、
ともあるまいが、古の
外あるから、古の

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44
ガラス使用

父母をそのほか朋友のあやまちをいさめるの、人
にそむかれ、人をそしるの、人の過をあばくの、
うらみ、そのほかいろいろ用ふよし、そもそもあやまち
日月のごとくにして、人皆これをあやまちむ、
改むるに憚ることなかれ、あやまちをあやまちとせざる
あやまちこれより大なるはなし、おのれに
あやまちなきことを、おのれ賢人君子にあらず、
愚人小人におとらざる、賢者小人にあらざる、
愚人君子にあらざる、
古人の言に、善をなすは人の己をすくふがごとく、
善をなすは己の人をすくふがごとし、
善をなすは己の人をすくふがごとし、
善をなすは己の人をすくふがごとし

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号 辰-44

ガラス使用

個書とよまてゐ、仁おそみ〳〵て義理ひきことのあ、
面倒おくてゐ武をよきものあ、重宝の書とをゐく
よみく、行ゐあ〳〵、家内ふるゐ
をゐ如者ゐ仁ゐくあり、け左まのわうちとをゐき
まゐて、笑、工くゐくよきものとし、工くあきもの
ニんとあけく書きくくし、時ゐ事のくい、文通武藝
ゐゐゐるくくし、相撲格別ゐ、
をと上ゐ上ゐ、下ゐ下ゐ、出合ゐる時、勝ゐる方勝
て、必ゐ勇気健ぜ生ゐまゐて、藝術ゐまゐものは、

行ゐの処一ゐ仁ゐまゐて、他の為をゐるものあ、笑い
法律用ゐくゐ西人、也、父母、幼ゐよりて
ゐくくて、藝術ゐゐものあり、ゐの勇のゐいろき
ゐと仁く、ゐ経みいまき友達ゐ、藝術をゐ
ゐいゐゐとのれ有ゐよ武藝いう事を
父母ゐ、ゐ方ゐ方ゐ練磨、ゐ外ゐをおいまき
ゐいゐゐ練ゐ工ゐ、ゐよゐ兵翼のか、不ゐをを
好ゐ、私の考ゐをゐ、家倫
修ゐ、倹約ゐ古人の風ゐゐの

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号 辰-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号 辰-44

ガラス使用

國本論

寛文四年十月七日

右久世大和守源廣之家到之武家諸法度之奥書ヲ毎年正月十一日諸士ニ読聞セシム
寛政六年甲寅七月改定ス

國本論序

書曰民可近不可下民惟邦本本固邦寧嗚呼君之與民以勢言之猶霄壤之不侔以情言之猶身體之相資以生也是故踈則離親則合合則邦寧離則危故君以者民得爲君民亦以有君得爲民君不君民安能得爲民民不民君亦安能得爲君以此觀之民則邦本而君之所以得爲君者也我大鏡公深有觀于茲嘗撰著牧民後判以述牧民之道其用心可謂深且遠也定信雖不肖敬奉

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号　辰-44

ガラス使用

祖宗之訓幸得與知所謂邦本而不可下之旨昔以
朝夕惄然心常有于下民之疾苦稼穡之艱難雖然目
焉不見之耳焉不聽之則豈其可能達其情哉昔以
問安視膳之暇駸目于經史盡心于閭閻因乃其於
民庶之情稍似有知什一於千百欲抄其要語以置
之坐隅而常目在之然而世事蝟集不能終達其素
志也今茲八月予患疾飲肩痛不可忍聲氣不可解
於是絶竹素翰墨之遊廢射御劒鎗之講或倚枉以
眠或曲肱而卧或徘徊庭中或箕坐于堂上悠悠以
調護焉雖則前忘未已而當有病間也閔毛詩以自
慰及至於幽風七月篇掩卷而長歎曰嗚呼傷哉民
之事哉于耜既終則耘耔又勞晝茅宵索凩夜不能
得而息也嗟乎此人而有此疾豈如我優游自奉以
養生乎疆疾就于畝風撼雨浴以侵寒暑加之有
徵求督課之日至也唯其疾之憂而已乎余深有感
於曩乎遂論述民庶之疾苦稼穡之艱難又旦舉上
自三代下至明氏有涉於利世安民之要術者以附
錄其後且余以患肩疼皆占使人筆之凡十有一

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号 辰-44
ガラス使用

日而功畢矣因自名之曰國本論亦唯欲奉
祖訓不敢失墜焉爾矣觀者採其意而勿有左撰焉
而不精述焉不審

天明元年秋八月二十一日

白川世子源定信

國本論卷之一

白川世子源定信撰

一剥の象いわく山附於地剥上以厚下安宅とこれ下いよ
よ其本をそこなうの卦いわく地に於て山のそびえ
坤て下るの艮い山のそびえ坤い地に於てそびえ
そびえて地に附そびえるのうえに艮て艮山
危ひの初六いわく剥牀以足蔑貞凶とこれ民惟邦本本固邦寧とも
いえり
一爻の象いわく損上益下民說无疆とこれ先疆とこれまた
そびえるをもいわく増加するのこと

ろう今於如天下有[illegible]
ものを[illegible]ないで[illegible]父母に[illegible]有若い
百姓[illegible]は君[illegible]れ[illegible]ないで[illegible]せられん[illegible]
[illegible]ろう人君此[illegible]を[illegible]あるに[illegible]ために天[illegible]を
おさむる[illegible]のである[illegible]を

一大禹謨に[illegible]可愛非君可畏非民衆非元后何
戴后非衆罔与守邦[illegible]れ人君[illegible]
[illegible]ろ[illegible]実に天地の[illegible]ひ[illegible]ことに[illegible]せる
君ろ[illegible]ことに[illegible]ふくい君[illegible]
よって[illegible]国を[illegible]ものを甚だ[illegible]
[illegible]ろ元首股肱の[illegible]ことに[illegible]ろ

脱愚人二字

[illegible]ろ[illegible]
一五子の歌に[illegible]予視天下愚夫愚婦一[illegible]能勝予
一人三失忍豈在明不見是圖予臨兆民凛乎若
朽索之馭六馬爲人上者奈何不敬[illegible]
[illegible]の人を[illegible]ろ[illegible]ま[illegible]獨まる
[illegible]ろ[illegible]ま[illegible]ろ[illegible]ま[illegible]ろ[illegible]ま

一天子ニ事ヘテ其ノ政ヲ聴キ其ノ
ヲ治メ天ノ与フル所ノ
ヲ受ケ以テ
ラレヲ
ヲ
ヲ

を其職を失ひ天罰をうくるに至る
ものは天をうやまはざるを慶まざるが
ゆゑなり天命は天をうやまふ者を慶
し天命なきものをうやまはざるを
きらふものなり
一天命不寧天の命をふかくせざれば
民の服せざるふかくして徒労のみなる
を書曰天視自吾民
視天聴自吾民聴とあるが如く天の天下を
治るに民の訟獄謳歌するものを天のあるゝ
をあらはし一人一族一国一邑の善悪彰顕
するもまた民なり堯舜の人のみ善
悪とするに

一ヶの私なきをもて天下の
ふかきをもて天のこゝろをも人君一人のう
へにうつし心をあらためざるべからず
一天職を修むるにつゐて書曰学徳倫
天職を修むるにつゐて書曰学徳倫
を偏ぜざるをもとめ又曰通
人君百司の政をきゝ土木をおこし
奢侈放肆にして天民をうれへしむる
ことなかれや
一人君社稷を鎮安するの功
民を耕織をまなばしむるを
人君自耕

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44
ガラス使用

これ厥すでに老よわあるをもて民い幻惑まみ
易民すくなく不寛の民敢くなく不寛の
天下を基を濳する泗上の亭もより起
漢るいたるいたり二世けいやしむ
ものを出二世けい負るをもて此功
ものをもて如きこれ除こと約をもて
ちくく天嬴をもて書回亟まし
民主周与成厥功とい
一詩曰投我以大桃報之以瓊瑤
此賞あるまこの徳あれを必此報あまし
あるく云今に待なるまこのことをまも

うるまこ此功莫大るもれとも
ちくくうるくく其租税をもて其給
傲如をして下民を下視くて其功の大
いうるやく人君に在をきそい縦
強よう功をもて我織女舂蚫婦の労よう
ちくくて今に至るまでくい耕耨耘穫終窮をもて
つくて我農人はまりつるまうまうまう
くく孫よりくのちくいくんを逸するの
周公曰君子所其安逸先知稼穡之艱難乃逸則知
小人之依ちくく一公一云民の功よあ
紂之の如あくせるまくなのちくく
あるるまくあるまくあるまくあるまく

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

一古より統ることなり。毛氏の傳を考るに、周公多邊及七月の篇を作て、農民の艱難を述給へるを、故と漢の史家武帝大宗共に、下民おこるをいとひ、下情に達せざるの甚しきを譏りし事なりと。今の人、農民を下愚の物と思ひ、幼より室に居、宮殿に遊び、稼穡の苦を知ざるゆへ、徒に驕奢に流れ、風俗の敗壞するを、おそれざるの甚しきなり。此詩を作りし人、君子の心を以て、小人の情を察し、天心を以て、人情を推し、人倫の綱紀を正し、王后の業を助け、農桑を勧め、蚕織を奨給ふ。人君たる者、下民の艱難を知ざるべからず。今人君貴きを以て、賤しき農業を賤しみ、富を以て、貧しき強窮の情を察せず、人君たる者、農民の苦を知ざるべからず。農民を作て、高貴ある者、これを推察せざるべからず。今農業を好む者、古語に黄金珠玉飢不可食、寒不可衣、

一天子諸侯耕して粢盛を供し、王后蚕して祭服を供し、農桑を勧め、蚕織を奨給ふ。人農桑を務て、下民を率ひ、今人君貴きを以て、賤しき農業を賤しみ、富を以て、貧しき強窮の情を察せず、人君たる者、農民の苦を知ざるべからず。農民を作て、高貴ある者、これを推察せざるべからず。今農業を好む者、古語に黄金珠玉飢不可食、寒不可衣、

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号 辰-44
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

華佗の五禽の戯をおこなひ百齢
僊傷ことく朝よりゆふべまで休息するのみにて
生をまたのべんと心ざすふみの精飯後ゆるやかに
書をよみ筆をとりて合をつくりそれを飲服
ふたゝび昔政をおこなひその高名
その粮のことく職役給せられて或ひは捷楚せられ或ひは
禁固せられ邑をとられ田をうばはれ書を焼かれ
ひは溝壑に轉死をこと厭言盲受懼よりて命もすてる
ことも武い必壽考ならんことを幸ひ
考ることものもこのみあひてあひ天没のことやみ
ることの年おくことの憂よあることを不幸とならんことを

甘言の殺ことく甘言の殺ことく
通せんことを甚忠ことをおもひ君ことく
ことく人君ことく下情をきゝ
ことく文ことく六経史籍ことく百家の書を
秘籍の書ことくして唐の内官仇良
を待ち権寵ことく同くことく
書をよみことくことくことく儒生をことく
ることくことく教臣邦臣のことくことく
ことくことくことくことくことく
一人ことく天下のことくことくことくことく

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号 辰-44

ガラス使用

[illegible]

[illegible]

[illegible]

楮繁の淫祀幸行くつ人壽の傷殘ろくつみ堅好
夢習ふるまことはのをおもひて笠を刈莊
出ろく春揃緻踏ふみ稼穡の大概ろまその場圃よ
ろれ九穀をよい漆松柘菜梓よまおをいふくまます
これ土を窮ろ鬱培ふくこれをろまのろろ多
塗ふてつとあるを農のろろむくのろろくまて
常よ年ぬをおろ志ふくけ家に農の事
ろふふ
一什一の稅ふ天下の中正ろ今ろまろく
農民七分ふ民の稅あるをふんや貢賦の
ろくふろ

一場圃ふ賦ある家に賦あるを或
ある家ふまてい賦をふろまろくまてい布を曜
酒を釀ふまて樓柝菽麻の類ふ貢をむろめ山民
父ふおふ人一室ふ在ふ稅金をろのふ
別室をろくふすめろも賦をおろめて
ろろ姥水の費をろんふすまろ
出ろせろろ人男よくおろ宮室梱堂をろよ
工匠ろの歩をふろは費鉅萬ろ千乘の君ろ室を
ろる民の室をまろくや甚賦で出ろ
つろふろろ弁せろをふをろめを民儕ろのろく
ふ稅ろして甚金をつろや賦で出ろろんをおもろ

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号　辰-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号　辰-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号 辰-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号　辰-44

ガラス使用

償ひ…
倍蓰…
…
…
一揆…
…
…

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号 辰-44

ガラス使用

辰
44
2

国立国会図書館　タイトル『三十輻』 請求記号 辰-44

ガラス使用

辰
30
44

国立国会図書館　タイトル『三十輻』　請求記号 辰-44

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『三十輯』　請求記号　辰-44